



農業技術センターニュース

目		次	
	土着天敵クロヒョウタンカスミカメの 温存に適した植物の探索 …1		「日向夏」の液体受粉について …5
	高知県における ネギアザミウマの薬剤感受性 …2		二番茶の刈落時期と 翌年一番茶の生葉収量・品質 …6
	ガス環境の調節による アスパラガスの鮮度保持 …3		オランダ長期研修報告 …7
	ハウスショウガ栽培における 催芽種塊茎の利用 …4		オランダ長期研修報告 …8

土着天敵クロヒョウタンカスミカメの 温存に適した植物の探索

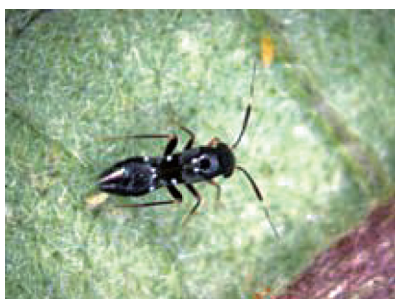


写真1 ナス葉上のクロヒョウタンカスミカメ



写真2 コバノランタナ

クロヒョウタンカスミカメは、コナジラミ類やアザミウマ類を捕食する土着の天敵で、すでに促成ピーマンなどで利用されています（写真1）。

土着天敵は一般的に市販されていないため、個体を継続的に維持する必要があります。その方法の一つが「温存ハウス」で、栽培期間中に土着天敵を利用した後、別のハウスで他の植物に定着させて一時的に温存し、次の栽培に再度利用します。

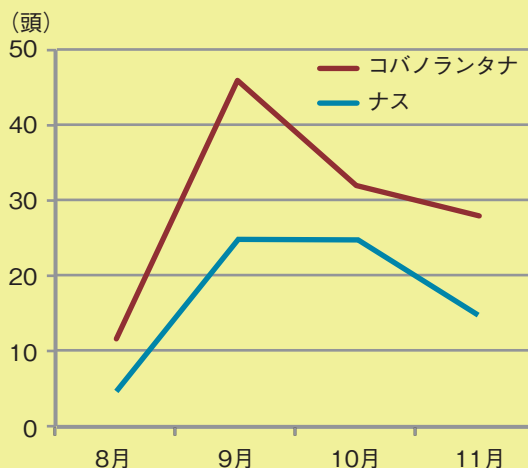


図 叩き落としによるクロヒョウタンカスミカメの捕獲数

注) 3カ所で叩き落としを行った合計値
放飼日は6月11日および17日

山間試験室では、温存に適した植物の探索を行い、これまでに、インゲン、コバノランタナ（写真2）、ランタナ、ゴマ、チトニア、ナス、バジルについて検討しました。その結果、定着数の多かったものがコバノランタナおよびナス（図）でした。次作の導入時期に当たる9～10月にピークを迎え、11月まで維持できており、天敵温存に適した植物と考えられました。

（山間試験室 児玉幸信 0887-72-0058）